



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2013/12/02(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 135

「平成25年度 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会」

北海道バスケットボール協会強化委員
指導者育成委員会 前野 和義

北海道予選会をふり返って

【 男子の部 】

優 勝 東海大学付属第四高校
第2位 旭川大学高校
第3位 駒沢大学附属苫小牧高校
第3位 札幌工業高校

インターハイ道予選会から引き続き3年生も含めて強化してきたチーム、補強として3年生に手伝ってもらっているチーム、1・2年生に切り変えたチーム、そして2年生の見学(修学)旅行や3年生の就職進学活動で調整が上手くできなかったチーム等、それぞれの事情がありながらの大会参加であったものと思います。また各指導者の方々は国体北海道予選会をへて3年生をここまで指導し、チームの柱として育て上げてきた事は本当に大変であったと思います。選手諸君も6月の支部・全道大会からこの11月まで選手生活を継続してきた努力を大いに賞賛したいと思います。

東海大四高校がインターハイに続き3年ぶりの優勝を果たす。今年の東海は得点エリアが広く内外問わず働ける#4佐藤を主軸として、リバウンドに集中する#7桜庭、フリーで点の取れる#15内田、変幻自在の#6山下等、バランスの良い安定したメンバーであったと思われる。ボールも良く回り人も動き、リズムのあるバスケットボールを展開していた。3回戦は札幌日大のゾーンを積極的に攻め、準決勝では札幌工業を、決勝戦では2-1-2のフルコートのプレスで旭大高を突き放し勝利する。来月に迫るウィンターカップでの戦いに大いに期待するところであるが、全国チームの高さに勝るスピードと、一層のディフェンス力も身につけ上位進出を期待したい。

旭川大学高校は3回戦に同地区同士の旭川工業が相手であったが、リバウンド力の差で逃げ切り、準決勝は第二シード月寒を破って勝ち上がってきた駒沢大学苫小牧を破り決勝に進出する。今年の旭大は主砲#6林を軸として、今大会参加チーム最長の高さを持って

スタートメンバーをそろえたチームである。決勝ではスタート早々、2-20と東海の勢いに押され大きく離れたのが痛かったが、2クォーター、東海のディフェンスが甘くなったところを、#15清水の投入が効を奏し追い上げるが、逆にリバウンド力は低下してしまう。3クォーターにプレスをかけられゲームの主導権を先に取りられたことは悔いが残る。4クォーター立ち上がり旭大にディフェンスの秘策が欲しいところであったが、そのまま引き離されたのが残念であった。エース林にセカンドチャンスを与えるプレーがあればと感じる。これからの林選手の大学プレーヤーとしての活躍に期待したい。

駒沢苦小牧は夏のインターハイ予選で#4佐藤の膝の損傷があり、今大会も参加できなかったことが残念でならない。#7シューター河内一人が孤軍奮闘するチームになるが、その穴を2年#13高橋がポイントガードとして成長しチームを牽引する。第2シード月寒を破ってのベスト4は2年生主体の駒沢としては立派なものであり、次につながる明るい材料となる。インサイドの使い方を覚えることによりもっとゲームが安定するものと思う。2月には地元苦小牧で開催される全道新人大会があり、若さ溢れる田島コーチのチーム作りに期待をしたい。

札幌工業は3回戦、帯広白樺学園を堅いディフェンスで破り、東海大四との準決勝に駒を進める。3年生は#17池田一人で、他1・2年生で構成している。特に1年生ながら堂々のシューターとして濱尾をスタートメンバーとして出場させる。若いチームだけにまだまだ荒い部分があり、これから整理されることによって新人大会では優勝の一角を狙えるチームに成長するものと思われる。

札幌日大は東海大四のブロックに入り3回戦で対戦する事になる。日大は#5高橋のスピードある1on1を軸として前半は好ゲームを展開するが、後半に入り2クォーターからひいたゾーンディフェンスが単調になったことと、ガード陣にプレッシャーをかけられボール運びが思うように行かずオフェンスリズムがとれないまま東海のペースになってしまったのが残念である。しかし一年ながら#17濱崎のガードとしてのプレーは素晴らしいものがあつた。

札幌月寒は二回戦釧路北陽との激戦を1ゴールの大逆転で制しての三回戦進出であったが、駒沢の安定した試合運びで敗北する。月寒は二年生に魅力のある選手が多いので新人戦には個性のあるチームとして育て上げるものと大浦コーチの手腕に期待する。

釧路北陽は3クォーターまで大きくリードしながら最後の最後に逆転を許してしまった笹木コーチの無念さは大きいものと思われる。今後ゲームの詰めの甘さを克服して次のチーム作りに大いに生かしてもらいたい。エース中山選手のこれからの成長を大いに期待する。

相変わらず小兵軍団の旭川工業は恵庭南に快勝したが、同地区同士の旭大との対戦となる。地区予選では1ゴールでの敗北であっただけに好ゲームを期待したが、高さに勝る旭大に確実に点を取られ敗北する。セットオフェンスが多くゲームが単調になり、積極的なディフェンスも空振り、速攻も出せない状況であった。

札幌南高校は久しぶりの全道大会進出であったが前日まで二年生が見学旅行であり、ベ

ストの状態では望めなかったことが残念であった。

稚内高校、網走桂陽、長沼高校、美幌高校、留萌高校などは戦力的には劣るが、チームとして戦う姿勢がよく見えていたと思う。

また何時も粘る海星高校、有望な一年生を抱える白樺高校、近年常連校の北海道栄高校、北見柏陽高校、函館大谷高校の頑張りも評価したい。

最後になりますが、今大会参加の各コーチの熱意ある日々の指導に敬意を表すると共に、今後一層の健闘を祈りまして今大会の感想に代えさせていただきます。

大会運営にご協力を頂きました北見地区バスケットボール協会の皆様に心より感謝申し上げます。